

2010年度

第十五回三河湾チャリティー 100キロウォーク

参加者感想レポート

2



開催日：2010.10.23～24

作成：出場メンバー

⑨100Km ウォークに参加して ミツイコーポレーション(株) 岡田 崇

今回、初めて100kmウォークに参加させて頂きました。昨年、名古屋支社の皆が参加し、話は色々と聞いていたのですが…やはり自分が参加したわけではないので、あまりリアルには感じていませんでした。なので、実際にスタートし歩き始めてもどこか甘い気持ちでいました。

前半は一人で歩いていましたが、山道に入り、足に痛みを感じ始めた頃に同僚の浅野さん、伊藤さんと合流し一緒に歩きました。

最初のチェックポイントを通過した頃には、スタートした時には予想もしていなかった辛さでしたが、一緒に歩いていた伊藤さんに励まされなんとか歩き続ける事ができました。

42Kmのチェックポイントまでもう少しというところで足を捻ってしまい、急激にペースダウンしてしまいました。そんな中でも伊藤さんの励ましのお陰でチェックポイントまで辿り着く事ができました。

チェックポイントでは、サポーターとして参加されていた先輩の竜太さん、渥美さん、先に到着していた面々に迎えられ、とてもホッとした事を覚えています。

また、足を捻った為まともに歩けなかったのですが、偶然にも「針治療の達人」の方がサポーターにいらっしゃり、治療してもらった事ができました。これは、「まだ歩けるぞ」と何かに言われている気がしました。

次のチェックポイントへ向け、遅いながらも歩いていきました。途中で捻った足の痛みもぶり返し、どんどんペースは遅くなりながらも、ただ一歩前に進む事だけを考えて歩き続けました。

52Kmのチェックポイントに辿り着いた時には既に日付は変わっていました。

そしてドクターストップがかかり、無念のリタイアとなりました。

正直、伊藤さんが一緒にいなければ足を捻った時点で諦めていたと思います。針治療の先生がいなければ52Kmまで歩くこともできませんでした。多くの人に支えられて歩く事ができました。また、先の見えない道程でも、前に進めば何かがあります。歩みは遅くてもその一歩一歩は確実に前に進んでいます。

これらの事は日々の生活でもまったく同じだと思います。100Kmウォークという非日常的な状況だからこそ、普段は忘れてしまっている事に気付くことができたのだと思います。

多くの人に支えられて生きている事に感謝し、自分も誰かの支えになれるように。

辛くても、遅くても、一歩一歩前に進むことが大切だと。

⑩100キロウォーク感想 ミツイコーポレーション(株) 宮本 祐弦

100キロウォークを完歩出来た大きな要因は目的、目標を持って歩けた事。スタートラインに立っていた自分は、100キロを歩き切るという目的を薄っすらとしか持っていない、リタイア予備軍でした。前日の睡眠も約2時間、靴も安っぽい物、服装も軽装。完全に気持ちが乗っていない状態でのスタートでした。案の上、道のりはそんな状態の自分がすいすいと歩ける様な甘いものではありませんでした。42キロ地点のチェックポイント。もう、ここまで歩いたら十分でしょう。と弱い心が自分に問いかけていました。自分自身の正直な気持ちも「もう辛いから止めたい。」そんな気持ちでした。

しかし、結果としては完歩することが出来ました。42キロ地点で大きな目標、目的を持つことが出来たからです。それは、ゴールをするという目的よりも先輩の兼古さんに食らい付いて行くという目的でした。この人に付いていけば絶対にゴール出来ると思ったから。目的が出来てからの自分は、この瞬間から前しか見ないようにになりました。本当に苦しい時でも最後まで僕を支えてくれた兼古さんに本当に感謝です。

何か大きな壁にぶつかった時でも、目的、目標を、信念を持って貫けば乗り越えられない事はない。大きな経験をする事が出来ました。

⑪100キロウォーク感想文 ミツイコーポレーション(株) 脇山憲二

今年の100キロウォークに関しては自分の中でテーマを決めて歩くことに前々から決めていました。そのテーマは『リベンジ』と『変革』です。

まず「リベンジ」に関しては簡単に去年が50キロリタイアをし、悔しい想いをしましたが、何が悔しかったというのは自分が辛くなったときに「やめる」という選択をした自分へ向けてと、もうひとつは歩いた人たちの顔を見てみると、とてもイイ顔をしていたのです。それを見てなんで歩かなかったのかなという悔やみを覚えた去年の100キロウォークでした。ですから今年は絶対に歩くという意味で「リベンジ」という意味にしましたが、それにはもうひとつ意味があります。きっとほとんどの方、むしろ大半の人が自分は100キロ歩けないと思っていたで

しょう。ですが、そう思っていただけの方がよかったです。今までの人生においてもそうですが、そういうのを見返す（言葉は悪いですが）こと、いい意味で期待を裏切ることが自分にとって気持ちいいので、始まる前は歩けないと思われて逆に自分にとってはプラスでした。そして、歩いて見返せばいいと思って臨みそういう意味で「リベンジ」でした。

もうひとつのテーマの「変革」という点は今回の100キロウォークを通じて自分を変えようと思ったからです。ですから、今回は初めから1人で歩くことに決めていました。1人で歩くことによって、自分の中の甘えや考え方を換えようと思ったのです。加えて本当に自分にとって辛い状況のときに前向きな選択ができるか、あえて追い込んで挑むことにしました。

100キロウォークが始まる前にも「自分は歩ける」と信じ込み、絶対にマイナスの考えはしないというのを改めて思い、100キロがスタートしました。50キロまでは全く問題ありませんでしたが、そこを超えたあたりから徐々に足に痛みを帯びてきました。自分は初めペースが速かったのですが、次第にペースが落ちみんなに抜かれていきました。ついて行こうとしましたが、足がついていかずにペースはどんどん落ちてしまいました。気持ちは前を向いていますが、体がついていかない。次第に立ち止まるようになり、止まる度に「歩く」か「やめる」か、考えないようにしていましたが、つい頭をよぎってしまいました。そこで脳裏をよぎったのは先輩の竜太さんの言葉です。

「選択の連続でカッコいい選択をしてください」という言葉です。今回の100キロウォークは絶対に歩ききる、自分でもう決めたので前向きな選択をし続けて、気持ちも足も前に進めました。

でも足は痛い、足を引きずりながら歩くとコンビニに上司の鈴木さんと今泉さんとお会いしました。鈴木さんは声援を送ってくださり、今泉さんは痛んだ足を手当てしてくださりました。自分はそこで気づきました。今回自分は1人で歩こうと決めていました、ですが1人で歩いているわけではないということに。きっとそのとき自分が歩いていたのは色んな方の支えがあったからだと思います。チェックポイントでマッサージや整備をしてくれるスタッフの方、警備の方がいなければ安全に歩くことはもちろんできませんし、まずこのような機会を与えてくださった七福醸造さんにも感謝の気持ちが湧いてきました。そして今、目には見えませんが、苦しい中ががんばって一緒に歩いている会社のみなさん、サポートしていただける方々はもちろん、今日見送ってくれた親にも感謝したいという気持ちになりました。鈴木さんの応援メールにもあったように「感謝を歩くことでしか表現できない。」それをそのまま飲み込んで、感謝の念を抱きただひたすら足を前に出しました。

あと残り10キロになるとあと少しの安堵感もありましたが、足も相当きつくなってもう引きずってしか歩けませんでした。でもあと少し！それを糧にがんばろうとすると自然と泣きそうになりました。もう少しで終わる、1人でずっと歩いてきた寂しさ、なんだか色々な感情が湧いてきました。もうわけがわからない感じになり一步一步前に進みました。やっとゴールが見えてきて鈴木さんが肩を貸してくださり、また進むことができ、ゴールには上司の山梨さん、竜太さんがお迎えくださったのもなんだか一人ひとりの顔をみると泣きそうになりましたが、それよりも本当にうれしい、感謝という気持ちが強く笑顔のほうが自然に出ました。

本当に今回100キロを歩いたことでたくさんのことを学ばせていただきました。また自分の100キロウォークのテーマ、「リベンジ」に関しては達成できたと思います。ですが「変革」に関してはこれからです。100キロウォークはただのきっかけにすぎないと思います。ここからはこの100キロという経験を得た自分が本当にどう変わっていくか、それがこれからの自分のテーマになりそうです。

⑫100キロウォーク感想文 ミツイコーポレーション(株) 大岩由実

私は、歩く前から周りの人に、完歩します！！と強気な発言をしていました。

100キロ歩ける人がいるんだから私が歩けないわけがない！

そんな気持ちで挑みました。

始めは楽しく会話しながら歩いていましたが、徐々に足の痛みが辛くなりました。

40キロ時点でもう相当な痛みで40キロでこの痛みなら100キロ歩いたら一体どうなってしまうんだろうと思いました。

しかし、頭には完歩ということしかなかったので、とにかく歩き続けました。

夜中は足の痛みに加え寒さも加わり、何度もくじけそうになりました。

そんな時は「頑張るぞ！よーし！！」と一緒に歩いた仲間と声に出しながら歩きました。

サポーターの方々からの声援はとても励みになりました。今まで会ったこともない方が応援してくれるという事も感動しました。

職場の先輩方は何度も電話をかけてきてくれたり、仕事が終わってから応援しに来てくれました。思わず抱きついて泣いてしまいました。

コースの途中の曲がり角のスナックのママさんが、「よく頑張ってここまで歩いたね。おばちゃんも営業中はがんばるからね。」と言って、氷の入ったお茶を通りかかる人に渡していました。何人にも。こんな優しい人がいるんだと思ったら、わたしは涙が止まりませんでした。

この100キロ、私1人では歩けませんでした。一緒に歩いてくれた仲間、サポーターの方々、とにかくたくさん

方に支えられたからこそ歩けた100キロでした。

100キロウォークを一言で言うと、感動です。人の温かさにたくさん触れました。私は100キロ歩いている間、何度も泣いてしまいました。しかしその涙はすべて感動の涙でした。

人ってすごい！こんなにも人を感動させることができるなんて。考えさせられた100キロでした。

100キロ完歩できたことによって、何でもやればできる！！と学ぶことができました。限界突破とはこの事だと思いました。仲間の大切さも改めて実感しました。本当に100キロ歩いてよかったです。

たくさんの感動をありがとうございました。

⑬100キロ歩け歩け大会感想 ミツイコーポレーション(株) 福島彩

今思い出すと、長い夢を見ていたような気持ちです。

しかし、“完歩”という一つの目標に向けてひたすら歩き続け、ゴールできたという紛れも無い事実が、足の痛みと心にしっかり刻まれています。

ゴールして初めに思ったことは『一人だったら確実に完歩できなかった』という事です。隣でずっと一緒に歩いてくれた同僚の大岩さんを初め、一緒に参加したみなさんやサポートして下さった方々の存在が私をゴールまで支えてくれました。本当に本当に感謝です。

人生はよくマラソンに例えられますが、この大会も同じだと感じました。初めてのことで歩き初めた頃はワクワクしていましたが、徐々に疲労も溜まり精神的にもかなり弱りました。プラス言葉を意識していても... 何度も逃げたくなりました。そんな矢先に真っ暗な田んぼ道や急な坂道があったり、長く先の見えない一本道があったり... それでも自分を信じて、支えてくれている方々への感謝の気持ちをバネに一步一步進みました。その先には、想像以上の達成感と喜びがあり、感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。様々なことを考えさせられた100kmで、すごく貴重な経験ができました。

この経験を活かし、生かされていることへの感謝の気持ちを忘れずに、何事にも全力投球で取り組んで生きたいです！
自分の限界を決めずに、自分を信じていきたいです！

⑭100キロウォーク感想文 兼古

10月23日、24日と二日間で100キロウォークが開催されました。

私は、今回の大会で、3回目になります。

1年目は、情けない事に、57キロでリタイア...

2年目は、完歩

そして、3年目、今回も何とか完歩する事が出来ました。

3回参加していますが、毎年、参加する事に様々な気づきをいただきます。

1年目は、情けないですが、歩く目的は、何もない状況でした。

準備や気持ちも本気ではありませんでした。その結果がリタイア。

しかし、その時に完歩している方々の表情やゴールしている姿を見た時に、悔しいと共に、来年歩こう。絶対完歩と心に決め、2年目は、絶対完歩！（自己成長）を掲げて歩き、完歩できました。

そして、今年の100キロ。

今年も完歩する事ができました。今年の目的は、（自己改革）でした。

何としても、後輩を完歩させる事でした。

100キロウォークを3年参加させていただき本当に様々な気づきがありました。

どんなに良い本、言葉があったとしても自ら体で経験した方が、一番自分に大きな気づきをいただけます。

自身のブレイクスルーポイントが突破できる（限界突破）できる経験。

自分自身の気持ち次第でどうにでもなる事。

本気になれば何でも出来る事。

準備力の大切さ。
自分の根性。
自分の弱さ。
自分の強さ。
自分1人では、歩け無くなる事。限界がある。
色々な方々に支えられたからこそ完歩できた事。
先輩は、後輩をしっかり援護する事で、後輩が完歩できる事。
後輩と一緒に歩く事での先輩自身への気づき。
皆で歩いている。全員で完歩する！という一体感。
あきらめない！あきらめてたまるか！のド気力とド精神力の向上。
そして、涙を流す事。
皆で涙を流す事。
全員でゴールした時の感動。
こんな経験は、社会人では、なかなか経験できません。
本当に貴重です。
本当に参加してよかったと心から思います。
この経験をこれからの自分の人生に活かしていきたいです。
サポートして下さった皆様ありがとうございました。

⑮松本照人

今回、歩かせて頂いて100キロの凄さを感じました。
まず、道のりです。こんなに長いものなのか…。最初に歩き始めた1キロと終盤に歩いた1キロとでは、こんなに違うものなのか伸びているんじゃないかと思う程、距離・疲労共に倍以上のものを感じました。
ただ、そんな距離を歩けたのも自分1人の力でなく、夜中に1人で道を案内してくれるために立って待っていただいているガードマンの方、チェックポイントで暖かく迎え背中を優しい言葉で送り出してくれたサポーターの方。同じ100キロ完歩を目指して歩いている人達の引っ張ってくれるような声かけ。100キロの足の痛みを和らげ忘れさせてくれる電話やメールをくれたお店のみんな。
そして、丈夫な体に産み育ててくれた…父、母。
自分1人でなく普段気付かない色々な支えがある事を教えて頂き改めて感じる事が出来ました。
ありがとう…
そして、この大会では自分との戦い。というキーワードを聞いていましたが、完歩して感じたのは戦いではなく、自分を強く信じる！と完歩するイメージが出来るか！（希望を捨てないか）ではないかなと思いました。
また、裏側では『感じる』というテーマがあるのではないかと思うくらいに普段、感じきれていなかった事が感じられるようになると小さな幸せや小さな喜び・嬉しさって沢山あるんだと実感しました。
100キロを歩き、そんな小さな感じる事を仕事や私生活を通して生み出したり、広げていきたいと思います。
機会と出会いをありがとうございました。
松本照人

⑯堀田美香

100キロウォークからもうすぐ一ヶ月たちます。あの出来事は本当にあった事なのかと感じる24時間でした。軽はずみな言動で参加が決まり、一週間程後悔しました。参加のはんこは押しに行きませんでした。マネージャーが全員分の参加表を私に出してこいとたくしてきてから、完歩しようと心に誓いました。
実際完歩することは出来ましたが、100キロは長い道のりに感じますが、ずっと歩くのをやめなければ絶対に辿りつきます。それが、早いか遅いか個人差はありますが途中でやめなかったのは私一人じゃなかったからです。退屈もなく、リードもあり、励ましと支え。これが全てです。全部自分で出来る、わかっていると思ってる世界程つまらないものはないと感じました。頼り、頼られ…って、信頼の証ですよね。営業中でも、先輩の話や技術を広い目で真剣に受け止める事ができるようになったと思います。

一緒に歩いてくれた有井さん、平野さん、松本さん、岩崎さん、あの時の辛さは忘れたいと思います。歩く事が出来なくなることってあるんですね。
私はこのタイミングでこのメンバーで歩いてよかったです。ありがとうございました。
スタートからゴールまで、メールや電話ありがとうございました。これは本当に力になりました。

最後にマネージャー。この企画に参加するきっかけになりました。最初から最後までサポートありがとうございました。安心して歩ききることができました。

どこにいても可能性を広げる事はできる、自信も身につく。これはたった一日100キロを歩くという経験をするだけで感じました。いかに一日ムダなく過ごすか、レッスン一回でどれだけ真剣に打ち込めるか。

今からが勝負だと思っています。

みんなにも是非参加してほしいです！得るものはたくさんあると思います。

土日の営業を抜けさせてもらって、こんな素晴らしい経験までさせてもらい本当にありがとうございました。

⑰ビフィーノ モーダ 有井千恵

100^キウォーク参加させていただきありがとうございました。

この経験が自分を見つめる良い機会になりました。今、この文が書ける自分は貴重な経験が出来た証です。

100^キを歩くと言ったものの初めての経験で想像も出来ない未知な距離でした。でも実は必ず歩けると内心では自信もあり…。

実際は85^キ地点まで余裕でゴールまで行けると思う位、元気満々だったのです。が、そこから大きな壁でした！気持ちは前に行くのに体がいうことをきかず、脚の至る所が痛み始めたのです。後15^キ…後14^キ歩いて歩いても距離が縮まらない…疲労もでて、自分への苛立ちもありました。

でもゴールがあるから歩かないと！！目指すものがあるから何とか気力で前に進む。一步でも確実に前には進んでる。と自分に言い聞かせ、耐えました。

この時に支えてくれる仲間が存在が本当に有り難いものでした！痛みと戦いつつも思いやれる本当の仲間！しんどい経験を共にしてるから「頑張ろ」の言葉に素直に「うん」と答え、「頑張ろ」と励ませる事ができました。

今回の参加を決めた時から練習で、ずーっと共に歩き続けたStaffのほりちゃんは私にとって一番心強いパートナーでした。一緒に店舗で働いた事もなく、彼女がどこまで本気でこのイベントに参加したのかも分からない状態からのスタートでした。営業が終わった深夜から歩く練習を重ね、自信と体力を身につけてきました。いっぱいお話しして、いっぱい笑っていつの間にか二人共、この100^キウォークをととても楽しみにしていました。

ほんとに良いコンビネーションで当日もペースがピッタリ。

無理する事なく余計な気を使うでもなく、彼女が居たから今回の完歩があったのだと感謝しています。一人では味わえない感動と一緒に体験出来てほんとに良かったです。

もうひとり感謝したいのは、岩崎さんと言うお客様。参加の背中を押してくれたのは岩崎さんでした。1年前、私のノリに真剣に一緒に歩こうと約束してくれたのです。社交辞令ではなく1年越しの約束を果たしてくれた事がカッコイイ！決めた事はやろうと教えてくれました！

岩崎さんはフルマラソンを走る程、体力に余裕があるにも関わらず、私達2人をサポートしながら最後まで共に歩いてくれました。嬉しかったです

そしてそして、まだ感謝したい人がいっぱいいます。Staff 平野さん、松本さん離れて歩いててもお互いを気にかけて全員がゴールで再会できた感動をありがとう。

向井マネージャー、疲れた時に見るマネージャーの顔が何故か安心感を与えてくれました！と同時に100^キを3回も歩いている事に尊敬します。経験出来たからわかるマネージャーの凄さを感じました！応援ありがとうございました。伊藤先生も現場で応援して頂きありがとうございました。

北田先生、出発前の気合いの入る手紙とゴールで迎えて頂きありがとうございました。半端なく早い歩くスピードに驚きました（笑）

土井先生、終わった後、褒めて頂きありがとうございました！完歩できた実感が湧きました☆

サロンStaffからの応援mailと電話、忙しい営業を終えて疲れているにも関わらず代わりにばんこうにエールを送ってくれて勇気づけられました。ありがとうございました！

夜中も寝ずに私達をサポートして下さったボランティアの皆様、ホントに皆様のお陰でゴールまで歩けました♪決してゴールまで辿り着くのは楽な事ではありませんでした。でもこの痛みと辛さがあるからこそ、達成感が味わえ、ゴール出来た喜びを感じられました。そして諦めない根性と周りでサポートして頂いた方への感謝。これで終わりではなく、次へのスタートです！

後ろは振り返らず着実に前に進みます。新たな目標に向けて！！

良い経験をさせて頂き誠にありがとうございました。

ビフィーノ モーダ 有井

⑱日華化学株式会社 デミ コスメティクス 寺下武邦

多くの方々に感謝

3年前、52kmでのタイムアップ（リタイア）となり、その後、なかなか大会に参加出来ず、この3年は、あの時の悔しさと虚しさ、自分との葛藤を引きずって過ごしていました。そんな思いの中、今年は沢山のソウルメイトメンバーが参加（歩行&伴走（ボランティア）にて）されるとあり、再度リベンジしたい一心で挑みました。

前日夜、近くのホテルに前泊。そこには、ソウルメイトのメンバーが70人近く。部屋に入ると、親友の方からサプライズ。机に、アミノ酸サプリメントと塩飴、そしてメッセージ。「一歩一歩 自分を信じ 前へ前へ 仲間を

信じ いつか必ず 辿り着く あきらめない なげださない」。親友の心温まる心遣いと優しさは頭が下がる。

当日朝、過去の大会から雨が降らない時は一度もなかったという噂も不安要素だったが、ベストコンディションとリベンジというプレッシャー、1300名以上の熱気で仲間とスタート。

私のスタートグループには、ご夫婦で参加、親子で参加のメンバー。和気藹々、気分上々、順風満帆の中、スタートしてすぐ、七福醸造さんでのゴールでの垂れ幕にメッセージを残す。「リベンジ・絶対完歩」と再度自分に誓う。自分のペースを守りながら25kmまでは順調。途中、中学1年生とお父さんの友人親子は、さらに黙々と歩かれ、先に行く2人の姿は、まさに親子の絆と無償の愛を感じた。30km地点で、自分のペースを維持するため、ご夫婦よりも先に行かせて頂き、一人となり、多少心細い心境で再スタート。だんだん日も暮れ、一人になれば、不安と孤独の感に押しつぶされそうになり、3年前の出来事が蘇る。この30kmぐらいから膝の痛みが出て、引きずりながら歩いた事が、、、。そんな不安・孤独感・寂しさを打ち消す為、ポケットからウォークマンを出し、スイッチを入れる。やはり、GReeeeNは良い。歌詞を口ずさみ足が軽くなる。しかし、40km。ついに来た。自分の足に、「まだ痛くならないで」と願うが、右膝・左膝裏に激痛が走る。次の休憩ポイント(42km)には、ソウルメイトがボランティアで待機してくれている。足を引きずりながら何とか42kmへ。すっかり夜になっている。ポイントに着くと暗闇の中、あの人も、この人も、全国から応援に来てくれている。ぐったり休み・マッサージも受けたかったが、仲間がいるだけに、平常心を保ち、すぐ出発。どこか痩せ我慢。ソウルメイトから、「帰り(82km)も待っているから頑張れ」「必ず帰って来いよ」と背中を押され、元気を取り戻す。しかし、右膝裏がやばい。信号待ち、屈伸が出来ない程。そんな中、見ず知らずの若い女性から、「信号待ちでは無理やりでも屈伸をしないと駄目ですよ。そうしないと、ゴールまで無理ですよ。」とアドバイス頂く。早くから屈伸を繰り返していればという悔いは残るが、、、。すごく心強かった。しばらくその女性の後を歩き、信号では、無理やり屈伸をする。46km付近。一緒にスタートしたご夫婦の旦那さんが追いついて来た。奥さんは残念ながらリタイアされたそうだが、逢うなり、「あなたを必ずゴールに連れて行くから」と言われ、涙が込み上げて来た。右膝裏激痛で遅いペース合わせて歩いてくれる。何とか、52kmまで来た。絶えれないくらいの膝裏の痛み。マッサージを受け血流を良くしたいと思ったが、そこには、疲れきった方々でごった返ししており、マッサージ待ちもすごい人数。その時、友人が、「ここに寝て。マッサージするから」と一言。疲れているのは皆同じ。友人も足は痛いはずなのに、自分のためにマッサージをしてくれるなんて、、、。余裕がない自分に腹立たしい思いと情けなさが込み上げてくる。友人に対する罪悪感させ出してくる。寝ながら、心に誓った。「絶対、何があろうと、この友人と完歩したい」と。友人の魔法のマッサージのおかげで、足が軽くなった。ここからが未知の世界。無我夢中でひたすら前を目指す。気がつけば、62kmまで来た。2人で、疲れきった体を心優しいボランティアの方によりマッサージを受ける。日頃マッサージを受けた事がないだけに、くすぐったいが、さすがに体は欲していた様子。親切・丁寧な対応にまた元気を頂く。この調子と思いつつ、70kmを目指す。左膝の痛み、右膝裏のリンパの腫れ、激痛、恐ろしい眠気、身震いする寒さ、杖を出し、何とか前に進むが、一気にペースダウン。このペースでいけば、タイムアップになると察した友人は、自分のペースを上げようと先を歩き、声がけしてくれる。こんな自分を応援してくれる人がいる、支えてくれる人がいる。今回サポーターの恩師から、「足が1本なくなっても歩き続けて下さい」というメールを思い出す。ここで止めたら、前を歩く友人にも申し訳ないと全身全霊、力を振り絞り、3時間近くかかってようやく70kmへ。椅子に座り、ここでも親切丁寧なボランティアの女性の方が、必ずゴールできますようにと願いを込めながら熱心にマッサージしてくれる。人の優しさを肌で感じた。身震いするくらい寒さの中、友人が、味噌汁を持って来てくれた。体も心も温まる。次のポイントには、また仲間がボランティアでたくさんし、皆に逢いたい、必ず皆に逢いにいくという思いでスタート。朝日が昇ってき、友人はペースとタイムを気にしながら、朝食のバナナを渡してくれる。休んでいる暇は殆どなく、前に進むしかない。数多くの方々がどんどん追い越していく中、タイムを気にしながら、暫くすると、観覧車が見え82kmまでもう少し。大好きな仲間と逢えると思えば思うほど、気力だけが足を進ませる。ついに82kmに到着。仲間が沢山の方々をマッサージして頑張っている姿を見、自分も少し休もうと思った瞬間、親友の方から、「休まずゴールを目指せ」と言われ、背中を押される。正直、ちょっとは休みたいと心境の中、そのまま仲間から声援を受けながら歩く。もう限界に来て足が前に行かないが、目の前を歩く友人の姿を見ると、決して諦められない心情になる。意地と気力で足を前に出す。96kmまで来た。ボランティアで参加されている上司が最後の元気づけをしてくれ、ゴールは目の前。ゴール近くのピクトリーロードを言われた海岸線を歩きながら、この2日間を振り返る。いろいろな人に支えられた事、元気づけられた事、勇気をくれた事。そして、ここまで引っ張ってくれて、自分の前を歩く友人に心から感謝したい。ついに念願の友人とゴール。涙が溢れて来た。言葉に言い表せないくらい感謝したい。お互い抱き合い、心から叫んだ。「ゴールというプレゼントをありがとう」と。まさに、感謝・感激・感動のゴールでした。

今回、リベンジ=ゴールを果たせた事は心から嬉しい限りですが、それよりも、いろいろな人の支え、人の優しさ、を気づかせて頂いた次第です。そして、この場をお借りして、多くの方々に感謝感謝です。一生の思い出です。貴重な体験をありがとうございました。

合掌 深謝

日華化学株式会社 デミ コスメティクス 寺下 武邦